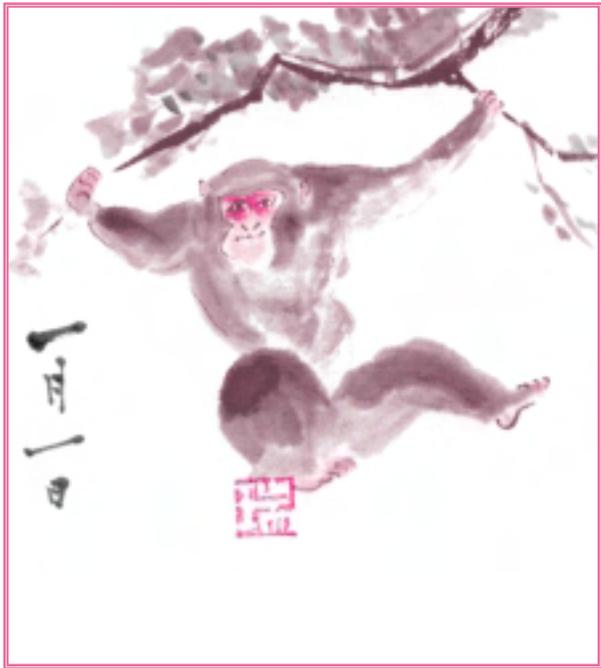


# いしかわ 県薬レポート

2004、 1 50

編集発行  
金沢市広岡町イ25 10  
(石川県薬事センター内)  
社団法人 石川県薬剤師会  
会長 徳久 和夫

## 目 次



手取屋瑞子 画

- 年頭所感  
徳久 和夫..... 2
- 新年のご挨拶  
中西 敏夫..... 3
- 新年のご挨拶  
藤井 基之..... 4
- 新年のご挨拶  
こにし 恵一郎..... 5
- 北陸信越薬剤師金沢大会を  
終えて..... 6
- 第43回北陸信越薬剤師大会..... 6
- 第36回北陸信越薬剤師学会大会... 9
- 「平成15年度薬剤師生涯  
教育推進事業」指導者研修会.....12
- 薬局薬剤師リフレッシュ講座.....18
- 日本薬剤師国民年金基金  
について.....19



## 年 頭 所 感

社団法人 石川県薬剤師会  
会 長 徳 久 和 夫

明けまして、お目出とうございます。

会員の皆様には、健やかに新年をお迎えなされたことと、お慶び申し上げます。

さて、分業率超50%時代を迎え、私たち薬剤師は新たな事態に直面しています。一言で申せば、「薬剤師職能の危機」です。このことの助走は、すでに早い時期から始まっていたのですが、ともすると処方せん受取率の伸長にのみ目を奪われていた私達には、遠い他所ごとにしか思われていなかった嫌いがあります。その間、怪物の成長と接近は加速の度を強め、昨年に行きよやくその全貌を薬剤師の眼前に見せはじめました。規制緩和の美名に着飾った「薬剤師いらない！」の大合唱。怪物は巨大であるだけではなく醜悪でさえあります。私たちは、その正体を真剣に見極めなければなりません。

もちろん、受取率50%達成の意義は歴史的に大きいものがあります。その延長線上に薬学6年制のあることも、また、うれしい現実です。しかし、私たち「薬剤師」は、このことで有頂天になっている訳にはまいりません。

本県の場合、受取率は30%に手が掛かり、能登北部から南加賀まで、全県下すべての

医療圏を通し分業過疎地域はなくなりました。医薬分業に関わるあらゆることが、（良いことも悪いことも）どの地区に起こってもおかしくない状況にあると言えます。

私達は、県民に約束をしています。『薬の安全確保は、薬剤師が責任をもって遂行します』と。そして、その目的達成のためにも、本年7月に予定される参議院選全国区に出馬する私たち薬剤師の代表候補「にし恵一郎」君の必勝を期さねばなりません。

今年は、<sup>サル</sup>申年。

世の中を <sup>タト</sup>なにに喩へん <sup>エンコウ</sup>猿猴の

かた手<sup>ノ</sup>申ぶれば かた手短かし

猿猴捉月画賛：仙儂禅師(1750～1837)

猿が水面に映った月を取ろうとして、溺れ死んだという故事にちなむ。捉らえようと片手を延ばし、もう少しのところでおもわず木の枝にぶら下がっていた力腕を延ばしてしまったため、力つきて落下した。



## 新年のご挨拶

社団法人 日本薬剤師会

会長 中西 敏 夫

新年明けましておめでとうございます。  
昨年中で、私が最高に嬉しかったことは11月の総選挙において、薬剤師議員である、肥田美代子先生（民主党）、三井辨雄先生（民主党）の再選が果たされ、そして、松本純先生（自民党）の衆議院議員への復帰が決まったことであります。あらためて、会員各位のご努力、ご協力に深く感謝を申し上げます。選挙の低い投票率から国民の政治不信や無関心が危惧されているところですが、会員のみなさまにあっては、政治と薬剤師職能の確立は直結している問題としてご認識いただいているものと考えております。

昨年は、「薬学教育修業年限の延長実現」、「医薬分業の質的向上」、「医薬制度改革問題」、「規制改革問題」という4つの重要課題で東奔西走する毎日でした。その中で、「薬学教育修業年限の延長実現」については、文部科学省の協力者会議でも厚生労働省の検討会においても「薬剤師養成教育については6年の学部教育が基本」と認識され、大きな進展が得られたと考えております。また、この問題も、自民党の薬剤師問題議員懇談会に設置していただいている「薬剤師教育検討チーム」（事務局：常田享詳先生、藤井基之先生）のご支援なし

にはこのような結果は得られなかったと考えます。この先、文科省の中央教育審議会を経て次期通常国会において学校教育法が改正されることを期待しております。

また、「規制改革問題」は、6月27日の閣議において「安全上特に問題がないとの結論に至った医薬品すべてについて、薬局・薬店に限らず販売できるようにする。」とされたわけですが、国民の安全確保を無視した安易な規制緩和の流れには断固反対していく所存です。国家・国民の負託を受けた薬剤師という資格者の団体として、国民の安全、福祉が脅かされる施策に対しては、徹底的に異をとнаえて行こうではありませんか。それが薬の専門家である薬剤師の責務であると考えております。

今年も医療制度改革問題や調剤報酬問題で厳しい状況が続くものと思われませんが、豊かな明日の未来に向け、常に国民の視点で、薬剤師に関する諸課題に取り組む所存ですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

おわりに、本年は参議院議員選挙の年であります。我々の代表として、こにし恵一郎君を国政の場に送ることに一層のご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。



## 新年のご挨拶

参議院議員

藤 井 基 之

新年、明けましておめでとうございます。  
本年もよろしく願い申し上げます。

総選挙など、慌しい1年が過ぎましたが、  
皆様お元気で新年をお迎えのことと存じます。

さて、本年は薬剤師にとりましては、誠  
に重要な年となりそうです。

薬剤師養成教育の改革につきましては、  
日本薬剤師会がこの問題を取り上げて40年  
近くの歳月が流れましたが、本年は、いよ  
いよいよ6年制の実現の向けて学校教育法の  
改正等の具体的な動きが始まりましょう。

厚生労働省、文部科学省の委員会が、薬  
剤師養成教育6年制の必要性を答申し、前  
向きに取り組み始めたのは、日薬を始めと  
する関係者の方々の熱心な活動もありますが、  
何よりも医薬分業や病院における薬剤  
管理業務が進展する中で、医療の第一線の  
薬剤師の皆様がそれぞれの職場で職責を果  
たすべく努力され、薬剤師職能の役割、重  
要性に対する社会的な認識が高まった結果  
に他なりません。それは、平成15年4月、  
厚生労働省が発表した「医療提供体制の改  
革のビジョン案」において、医療のあるべ  
き姿として「患者と薬剤師の信頼関係の下、  
薬局・病院等において医薬品に関する適切  
な情報提供や服薬指導が行われる」と描か  
れていることに、端的に現れています。

その一方、一般用医薬品の規制緩和問題  
もいよいよ大詰め議論に入り、さらには  
4月に予定される医療費改定は、昨今の経  
済動向を踏まえた改正となると伝えられて  
います。しかし、高齢化の進展により、国  
民の健康増進対策の推進は大きな課題であ  
り、地域住民のセルフメディケーションに  
直接かかわる薬局、一般販売業薬店の役割  
は大変重要です。薬剤師が元気を出してこ  
そ、健康日本、健康21世紀を作ることがで  
きると確信します。また、医薬分業の進展  
により、保険医療における薬局の役割もま  
た大きなものとなっています。医療施設と  
しての保険薬局の経営基盤の安定は極めて  
重要な課題です。

今年は申年、難が去る、などと言われ、  
縁起もののサルの置物などが売れているよ  
うです。不景気も去り、景気が回復し、ま  
たイラクの混乱も去って、平和な良い年と  
なってほしいものです。小林一茶の有名な  
句に、「めでたさも 中くらいなり おら  
が春」という句がありますが、一茶は、「わ  
が春も 上々吉の 梅の花」と、より大き  
な喜びをも詠っています。

新しい年が、皆様にとって“上々吉の  
年”となりますよう、心からお祈り申し上  
げます。



## 新年のご挨拶

日本薬剤師連盟

副会長 こにし 恵一郎

2004年の輝かしい新春を迎えるに当たり謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

“聞くたびに珍しければほととぎす、いつも初音の心地こそすれ”お正月の珍しさはまさにこの心境でございます。

このような心新たな境地で将来の希望を期し、全会員の先生方と共に一致団結して来たる難関を突破しようではありませんか！

さて、日本経済もようやく上昇気流の兆しが見えてきました。ダボス会議を主催する世界経済フォーラムは2003年世界競争ランキングで日本が世界102カ国中、2年連続で順位を上げて11位になったと公表しました。日本国の原動力は、世界に冠たる高い技術力と有為な人材であり、世界が日本を再評価したのです。私たち日本人はもっと自信を持つべきだと思います。本年はベストテン確実でしょう。

一方、日本の医療システムも健康達成度の総合評価で世界保健機関（WHO）加盟国中第一位になりました。これは欧米に追随を許さない公的医療保険制度が機能しているからです。

一つは、昭和36年に達成された国民皆保険です。もう一つは、医薬品を含む医療の現物給付です。

この2つの制度によって戦後の劣悪な医療環境を急速に改善し、世界一の長寿国を築くことができ、今日のフリーアクセスが実現したのです。すなわち誰でも、いつでも、どの医療機関へもアクセス可能なシステムが構築されたのです。

このような安全で良質な医療をフリーアクセスで提供し続け、さらに発展させるには、財源の確保が必要です。そのためには国民の生命を守る医療を国家事業と認定し、医療や年金をはじめとする社会保障全体を国家安全保障と位置づけなければなりません。

その中で、私たち薬剤師は科学（サイエンス）・技術（アート）・人間性（ヒューマニティー）を兼ね備えた医療人として国民から信頼を勝ち取るべきです。

私たち薬剤師をとりまく課題は、真の医薬分業、規制緩和、薬学教育6年制、医療の提供体制、病院薬剤師の配員基準、調剤報酬、医薬品分類...と山積していますが、これらを解決するには薬剤師の職業区分の明確化を議会政治の場で法的に決着していかなければなりません。

私は薬剤師の心を一つにして、全国民の健康増進と安全の向上のため献身する覚悟です。

松下幸之助先生から、政治の在り方について直接薫陶を受けた松下政経塾の5年間。

渡辺美智雄先生から政治の実践について修行させて頂いた10年間。

これらのかげがえのない経験を生かし、本年も決意を新たに一層の政治活動に精励していく所存です。つきましては何卒一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

明けゆく2004年が先生方にとりましても最良の年でありますよう心からお祈り致します。

## 北陸信越薬剤師 金沢大会を終えて

石川県薬剤師会 会長 徳久 和夫

「利家とまつにお任せ下さい」で始まった北陸信越薬剤師会第43回（第36回学術）大会は、去る11月8～9日当会担当により金沢市において開催され、盛況裡に終了しました。ひとえに会員各位の絶大なる熱意と尽力のたまものと、多数の利家とまつ殿に対し深く敬意と感謝の意を表すものです。

今回の大会でもっとも印象的だったのは参加者に表れた大きな変化です。それは、延べ500名という過去最大の参加数を記録したことだけではなく、一人一人の自発的参加意欲が飛躍的に高まってきたということです。

これまではマイナーと思われていたこの種の地方会が、ようやく学会本来の体裁を整え始め、現場薬剤師の関心を呼ぶようになってきたことがわかります。大会スローガン「医療と福祉に貢献する薬剤師 確かな未来のために」が具体的に把握され、研究発表の質の向上と手作りによる学会運営のひたむきさが相俟って、これまでで最高との賛辞をいただきました。

それは、長谷川孝徳先生の特別講演「制度改革と生きのこり 加賀百万石の知恵と技術」に象徴されていたといっても過言ではありません。制度改革の嵐に直面する私たち薬剤師が、「利家とまつ」から学んだことは『改革の流れに逆らわず、その目的を見極めて、独自の新しい工夫を実行すること』でした。

平成の「利家とまつ」は、『薬のことはお任せ下さい』と県民に対し約束したのです。（平成15年12月31日）

~~~~~

## 第43回 北陸信越薬剤師大会



昨年11月8日(土)、9日(日)の両日、金沢駅前都ホテルに於て、第43回北陸信越薬剤師大会、第36回北陸信越薬剤師学術大会が『医療と福祉に貢献する薬剤師』 確かな未来のために のテーマのもとに開催されました。地元石川を始め、福井、富山、長野、新潟から460名余の参加がありました。

1日目の薬剤師大会は次のプログラムに従い行われました。



### 第43回北陸信越薬剤師大会 プログラム

#### 1. 開会のことば

石川県薬剤師会副会長 院瀬見義弘

#### 1. 大会会長挨拶

石川県薬剤師会会長 徳久 和夫

1. 来賓祝辞 石川県知事 谷本 正憲  
金沢市長 山出 保  
(代 読)

石川県歯科医師会会長 竹内 太郎  
(代理 副会長 外堀 章司)

#### 1. 祝電披露

#### 1. 挨拶

日本薬剤師会会長 中西 敏夫  
(代理 岡本 彰)

#### 1. 大会宣言採択

石川県薬剤師会常任理事 中村 正人

#### 1. 表彰式 北陸信越薬剤師会賞

受賞者 石坂 久夫(富山県)  
上島 良子(石川県)  
沢野 茂人( " )  
須賀 輝弥(新潟県)  
田中 芳郎( " )  
中林 伸男(富山県)  
平賀 貴志(福井県)

#### 1. 次期開催県薬会長挨拶

福井県薬剤師会会長 内藤 秀穂

#### 1. 閉会のことば

石川県薬剤師会副会長 河村 健

~~~~~ 休憩 ~~~~~

#### 1. 記念講演

##### 演 題

「制度改革と生きのこり」  
- 加賀百万石の知恵と技術 -

##### 講 師

石川県歴史博物館学芸専門員

長谷川孝徳

##### 座 長

石川県薬剤師会会長 徳久 和夫  
(敬称略)



このあと開かれた懇親会では、釣谷雅楽  
房合奏団によるすばらしい箏曲演奏に始ま  
り、政務多忙な中をかけつけて下さいまし  
た藤井基之参議院議員のスピーチがあり、

あっという間の2時間が過ぎました。

河島 進 北陸大学学長の音頭で万歳三  
唱をし、大会の成功を祈念しました。

茶谷美年子 記



## 大会宣言

医療にかかわる薬剤師について、国民の関心は非常に高いものがある。

また、国民の社会環境に対するニーズが多様化するなか、薬剤師の位置づけについてはいろいろと議論がなされている。われわれ薬剤師はそのことに無関心であってはならない。

今こそ薬剤師は医療人としての高い倫理意識のもと、それぞれの与えられた職域において薬剤師職能を発揮し、国民の保健・衛生の向上と福祉の増進をめざして、たゆまざる努力をするものである。

右 宣言する。

平成15年11月8日

第43回北陸信越薬剤師大会

## 第36回 北陸信越薬剤師学術大会



### 第1分科会 医療薬学分科会

12演題中、癌化学療法、リスクマネジメント、院内感染防止等、チーム医療の中で活躍していることが実感される発表が多かった。活発な質疑応答がかわされ、時間どおり進行するかあやぶまれたが、座長のたくみな運営で無事終了した。

明日への手掛かりと、すぐにも参考になりそうな内容で、充実した時間を過ごすことができ、発表された先生方に感謝します。

(中野 修 記)

司会 森 正昭  
座長 河村 嘉信  
座長 竹田 元

#### 1 - 1 当院における外来化学療法調製業務への取り組み

石川県 国立金沢病院薬剤科

佐藤 大介

#### 1 - 2 抗生物質使用基準の作成に関わって

石川県 城北病院薬局

村田 共子

#### 1 - 3 インスリン100単位製剤への切り替え～過誤防止への取り組み～

石川県 石川県立中央病院薬剤部  
虎瀬 和子

#### 1 - 4 C S I Iを用いて血糖コントロールの改善を試みた症例とインスリン残存率の検討

長野県 厚生連佐久総合病院薬剤部  
井内 学

#### 1 - 5 小児科病棟薬剤管理指導 - ノムコト・ノメルコト・ノマセルコト -

長野県 飯山赤十字病院薬剤部  
高相 智美

#### 1 - 6 高齢入院患者の転倒防止に対する薬剤師としてのアプローチ

福井県 福井温泉病院薬剤部  
木村 嘉明

#### 1 - 7 精神科疾患の処方解析と薬剤管理指導業務

福井県 福井県立病院薬剤部  
平賀 貴志

#### 1 - 8 薬剤部におけるTQM活動への取り組み

富山県 労働福祉事業団 富山労災病院薬剤部  
森谷 道生

#### 1 - 9 地域保健活動と薬剤師 - 学校保健活動をとおして -

富山県 公立井波総合病院  
山口 裕幸

#### 1 - 10 みのり薬局における一包調剤の在庫管理、品質管理に関する取り組み

新潟県 みのり薬局  
小野 彰子

- 1 - 11 当薬局における無菌製剤業務と今後の課題

新潟県 (株)エシックス白根調剤センター薬局 櫻井 嗣之

- 1 - 12 新薬と薬剤師のかかわり - 新薬委員会の評価と発表後の状況から  
石川県 菜の花薬局 中谷 浩子

新潟県 新潟県薬剤師会分業委員会 小林 敏夫

- 2 4 薬局が在宅介護支援センターになった時 行政と共に地域ケア推進事業を支援する

富山県 (有)アポケアとやま 藤井 明美

- 2 5 (社)上田薬剤師会における、休日・夜間体制への取り組み

長野県 (社)上田薬剤師会薬局部 増田 和也

- 2 6 テオフィリンの適正使用のために処方意図の理解と情報提供

新潟県 (株)エヌ・エム・アイ 三浦 雅彦

- 2 7 花粉症治療薬の使用状況と副作用調査

金沢大学大学院自然科学研究科 医療薬学専攻 清水 栄

- 2 8 先発品：後発品 添付文書上での比較

生物学的同等性についての考察

富山県 かみいいの薬局 長谷川靖彦

- 2 9 (社)上田薬剤師会における生涯教育への取り組み 新任薬剤師研修会

## 第2分科会 地域医療分科会

医薬分業、在宅医療が進展し、社会では薬剤師に対する認識度が高まっております。

こうした現状の中、今回の発表内容は充実さを増し、高度化しているように見受けられました。

地域医療の中で、薬剤師の活躍が益々、期待されるであろうと確信した分科会でした。  
(池田智恵子 記)

司会 池田智恵子  
座長 能村 明文  
座長 永江 典之  
座長 中村 正人

- 2 1 平成14年におけるモニタリング業務の分析について

長野県 若里土屋薬局 西村 彦一

- 2 2 ファーマシューティカル・ケアの私的考察

石川県 中森全快堂新庄薬局 中森 慶滋

- 2 3 広域病院における医薬分業状況アンケート(第2報) 平成14年度調剤報酬改定後の保険薬局の変化



を中心に

長野県 (社)上田薬剤師会研修部

宮澤 智子

- 2 10 能登北部医療圏での輪島菜の花薬局の活動～保険薬局学生実習を受け入れて～

石川県 輪島菜の花薬局

中西 晶子

- 2 11 当薬局における「ヒヤリ・ハット」解析(第2報) リスクをどうさげるか

福井県 ひまわり調剤薬局

田中 祐

- 2 12 患者に支持される薬局システムの構築

長野県 イイジマ薬局

熊谷 信

### 第3分科会 公衆衛生分科会

今回学術大会の公衆衛生分科会では、13演題が提起されており内容は社会環境関係、生活環境関係、さらに昨年から注目の話題となっているサーズ問題などが研究発表の主力でした。

これまでの発表ではスライド、オーバーヘッド・プロセクターが発表の補助的な手段として使用されてきましたが、今回はすべてパソコンによるパワーポイント方式のみで行われ、時代の隔世を感じました。

発表の内容については、最近の分析機器類がナノまたはそれ以上の極微量の単位まで測定可能となり、その測定値の統計分析を行いその結果を判断し、結論を導き出すことに研究の困難さがあり、また、その反



面研究の面白さもあると感じました。

最後になりましたが、研究に携わられた諸先生ならびに発表されました先生方に感謝します。(松浦 清 記)

司会 五味ひろ子

座長 松浦 清

座長 川岸 康男

座長 手取屋瑞子

- 3 1 飲料の環境負荷低減のために

富山県 富山短期大学

石塚 盈代

- 3 2 最近の小型球形ウイルス(SRSV)を原因とする食中毒の事例から

石川県 石川中央保健福祉センター

金子 妙子

- 3 3 A型およびB型インフルエンザ混合流行シーズンの学校での集団発生状況

福井県 福井県衛生環境研究センター

中村 雅子

- 3 4 調剤用精製水の汚染について

富山県 (社)富山県薬剤師会(医薬品総合研究センター)

城石 和子

- 3 5 従属性栄養細菌を指標とした学校

- 飲料水の衛生状況（O 26 集団発生による学校薬剤師の対応と薬剤師会検査センターとの協力体制）  
長野県 花みずき薬局・(社)長野市学校薬剤師会 小澤 詳治
- 3 6 ダイオキシンに対する薬剤師としてのかわり  
長野県 (社)長野県薬剤師会 しらかば薬局 上條 幸雄
- 3 7 環境衛生に関する当委員会の取り



#### 組みについて

- 長野県 (社)長野県薬剤師会（環境衛生委員会） 西澤 宏
- 3 8 シックスクール対策について  
長野県 松本歯科大学病院 福沢 正人
- 3 9 食品中の残留農薬分析におけるLC / MSの適用と問題点  
新潟県 新潟県保健環境科学研究所 酒井 洋
- 3 10 牛乳中に混入した化学物質の定量  
石川県 石川県保健環境センター 小野 陽介
- 3 11 抗真菌薬配合剤の開発における尿素配合の意義  
富山県 テイカ製薬(株)研究所 古池 淳平



## 「平成15年度・薬剤師生涯教育推進事業」指導者研修会

平成15年11月23日(祝) 午前9時30分～午後5時30分

石川県立中央病院 健康教育館

|                        |                      |       |
|------------------------|----------------------|-------|
| 「最近の薬事行政の動向」           | 石川県健康福祉部薬事衛生課主幹兼薬事係長 | 織田 敏郎 |
| 「全国研修会報告」              |                      |       |
| 「患者本位の医療を支えるバイオ革命」     | すずみが丘病院              | 西川美香子 |
| 「サービス業としての医療」への展望      | 北陸病院                 | 地野 幹子 |
| 「老年期痴呆の予防と治療」          | 金大薬学部病院薬学研究室教授       | 山田 清文 |
| 「全国研修会報告」              |                      |       |
| 「薬剤師教育の再考卒前と卒後」        | なおみや薬局               | 直田 弥丈 |
| 「最近の医療行政」              | かもめ薬局                | 川尻 力  |
| ワークショップ                |                      |       |
| 「SOAPを用いた服薬指導と処方箋の読み方」 | 事例検討 2分科会            |       |
|                        | 座長 金大医学部附属病院薬剤部副薬剤部長 | 打和 壽子 |

「看護職、それは人々の日常性維持へのエキスパート」

石川県立看護大学 基礎看護学助教授 川島 和代

「検討結果発表」

「大規模臨床試験に基づく慢性心不全の薬物療法」

金大医学部附属病院循環器内科 1 助手 高村 雅之

講 評

7月に日本薬剤師会主催の研修を東京で受講された4名の先生方の伝達講習会が11月23日、石川県立中央病院健康教育館にて行われました。

県の健康福祉部の織田敏郎先生の「最近の薬事行政の動向」では、厚生労働省はOTCを拡めて、自分で自分の健康管理をしてもらいたいと思っているとのこと。金大薬学部教授の山田清文先生の「老年期痴呆の予防と治療」では、よくかんで食べると脳を刺激し、唾液が歯を丈夫にし痴呆の予防になるという興味深い内容でした。

ギャラリーを対象に看護大学の川島和代先生は患者さんがよくなっていくことに喜びを感じると付けていらっしゃる看護日誌を交えて話されました。

「SOAPを用いた服薬指導と処方箋の読み方」、「事例検討」では金大医学部附属病院循環器内科の高村雅之先生が先生の出された2枚の処方箋の解説をされ、その後「大規模臨床試験に基づく慢性心不全の薬物療法」の講演をされました。

どの講演もたいへん有意義なよい研修会となりました。 三浦 智子 記

## 平成15年度「薬局・病院 薬剤師指導者研修会」報告

すずみが丘病院 西川美香子  
北陸病院 地野 幹子

平成15年度の、薬局・病院薬剤師指導者研修会の報告をさせていただきます。研修会は、昨年6月28日、29日の2日にわたり、東京の共立薬科大学で行われました。今回は「患者本位の医療を目指して」という全体テーマで、4題の講演がありました。

「患者本位の医療を支えるバイオ革命」と題して、日経BP社先端技術情報センタ

ー長の宮田満先生。

「サービス業としての医療への展望」と題して、聖路加看護大学教授の井部俊子先生。

「最近の医療行政（展望と課題）」と題して、厚生労働省医薬局審査管理課課長の安部道治先生。

「薬剤師教育の再考～卒前と卒後」と題して、九州大学大学院薬学研究院教授の樋口駿先生。

宮田満先生の講演内容「患者本位の医療を支えるバイオ革命」に基づき報告いたします。

～はじめに～



「患者本位の医療を支えるバイオ革命」日経BP社 先端技術情報センター長 宮田満先生のご講演内容を報告します。宮田先生はバイオテクノロジーが患者本位の医療にどのように貢献しているかということを理解していただきたいとのことでした。

～医薬品業界の大きな変化～

今、医薬品業界では大きな変化が起きています。一つは、より大きな企業がますます大きくなり、世界的な規模で企業買収、合併など業界再編成が起こり、世界のトップ10のうちM Aを経てない企業は2社のみになっています。今年8月にファイザーがファルマシアと合併し約4 - 5兆円の大企業が誕生しました。日本でも、これからは7割のマーケットを海外の企業が持つことになるだろうと考えています。これは世界同時開発が起ってくるということです。医薬品の許認可に関しては、日・米・欧のタイムラグがどんどん縮まり、例えば、イレッサは日本が世界をリードして許認可を与えた医薬品となりました。

もう一つは、ここ20年のバイオ革命の結果、ベンチャービジネスの登場です。海外のベンチャービジネスは日本の製薬企業・

武田・三共を上回るようになりました。日本でも新薬を追求するベンチャービジネスができてきています。これからの21世紀の創薬の主役は、巨大な製薬会社+バイオベンチャーということになります。

～病気 ～遺伝子の働きの異常～

科学の進歩でヒトゲノムが解明されたことにより、病気は遺伝子の働きの異常と環境要因によって起こるものだと考えられるようになりました。成人病はいくつかの遺伝的な要因が日ごろの不摂生と重なると病気を発病します。私たちが自分の遺伝子のパターンをしればどんな病気になりやすい体質であるかをあらかじめ知ることができます。その結果、ライフスタイルを改める、医薬品を投与される、この2つのことにより発病の可能性を防ぎ、発病後の悪化を抑制することができるといわれています。

サイエンスの進歩により医薬品業界はゲノム創薬の時代になっています。そして、標的の蛋白を明確にしたゲノム創薬が進み、グリベック、イレッサ、など医薬品が次々と登場しています。

～すべての研究開発の中心はテイラーメイド・オーダーメイド医療へ～

結局すべての医薬品開発はテイラーメイド医療の実現に向かっていきます。オーダーメイド医療とかパーソナライズド医療、個の医療といわれているものがこの分野に相当します。個人の遺伝、環境的な差に基づく医療が投薬を実現することになります。研究開発の底辺の考え方は、「患者本位の医療」の実現するためということです。今

までは、疾病に対しての医療行為でしたが、これからは患者自身に対しての医療行為となっていきます。

世界の流れはオーダーメイド医療（個人個人に最適の予防治療を可能とする医療）設計図（遺伝子）を知ってから治療をしようという方向に向かっています。現在の医療は、レディメイドいわゆる既製服であり、ヒトによっては大きすぎたり小さすぎたりしています。レディメイド医療では、患者個人に対する薬の効果予測ができず、予測できる効果としては集団としての確率情報となります。

例えば20～30%の患者に効果がある抗がん剤は、70～80%の無効な患者には極端に言えば副作用の危険にだけさらされていることとなります。それを避けるためにも、オーダーメイド医療に対応した投薬システムをつくっていかねばなりません。

オーダーメイド医療の将来像としては、患者の髪、爪、血液等からDNAをとり、SNPsという我々の点突然変異を解析するような装置にいれ、情報をICカードに保存し、診察投薬時にICカード情報と薬剤情報をあわせて、患者ごとに薬剤を投与できるか診断されてくるようなシステムが考えられています。

～患者本位の医療を実現する為の研究・技術～

「患者本位の医療」では、最終的に患者が治療を選択し、その結果責任も受け入れるシステムとなります。そのためにより確実な情報、患者が治療により得るベネフィットやリスクの情報を提供することが必要

となってきます。

患者への確実な情報提供を可能にする為の研究・技術として、DNAチップによる解析（遺伝子のスイッチの状況を確認する：例えばDNAチップの20くらいの遺伝子を調べてグリッバックを投薬すべき患者を選択できる可能性がわかる）、SNPsの解析（点突然変異の違いの解析：遺伝子の点突然変異を調べ、病気になりやすさ、薬の効き方、副作用の生じ方の違いを調べる）、プロテオームによる解析（遺伝子情報により作り出されるタンパク質の解析：例えば肺がんにおける正常組織と癌組織のタンパク質の違いのプロファイリングの研究がされている）が重要となっています。

～遺伝子の多様性研究の光と影～

遺伝子の研究には光と影の部分があります。光の部分では、病気の原因解明により薬剤開発、病気のリスク判定により予防ができ、薬剤の効率的服用や副作用の回避ができる一方で、陰の部分として、遺伝子上の1塩基違っていることで社会差別がおこる可能性があります。全員が疾病に関するSNPsを200くらいもっているということが常識となるように研究を急速に進めていく必要があります。

～オーダーメイド実現に向けての取り組み～

文部科学省、厚生労働省等各種のプロジェクトが進行中です。文部科学省は「個人の遺伝情報に応じた医療の実現化プロジェクト」を立ち上げ、各医療機関で30万人のDNAを収集し、各疾患や副作用発現に関係するSNPsを研究しています。世界各

国でも行われています。このプロジェクトを行うためには、社会差別が生じないように、研究に対する社会的な理解を得ること、資料提供者に対する適正なインフォームドコンセントを行うこと、個人情報の厳正な管理が必要となってきます。そのため暗号化、匿名化をあらゆる段階で行い、個人情報にはたどり着けないシステムを構築しています。

他にも厚生労働省「疾患関連タンパク質解析プロジェクト」文部科学省「再生医療の実現化プロジェクト」などが行われて、オーダーメイド医療・患者本位の医療の実現に向けて研究が進んでいます。

～薬剤師に求められること～

科学の進歩により医薬品は、医療のなかで、ますます重要性を増していくと考えられます。「薬剤師に求めること・求められること」として 講師はS E C Sが大切とおっしゃっていました。

S Solution 患者さんの問題解決を提供すること。投薬が適切かどうか、患者さんの問題を解決するのか、どの程度のリスクをあたえるかの情報を提供する。

E Ethics 投薬する際に遺伝子情報にアクセスすることになるので、高い倫理性とプライバシーの保護が必要となる。

C Communication 「患者本位の医療」が実現すると、患者が自らの治療法を選択することを要求する時代になる。薬剤師は患者が治療法を選択できるように的確な情報をわかりやすく伝えることが重要となる。

S Science 生命科学やバイオテクノロジー

の知識の半減期は約2ヶ月なので、先端科学への正しい理解を常にもつように努力してほしい。

以上、患者本位の医療をということで科学者の立場からのお話を頂きました

井部俊子先生の講演内容「サービス業としての医療への展望」に基づき報告いたします。

～はじめに～

井部先生は聖路加国際病院で、10年間看護部長と副院長を経験され、2003年5月から聖路加看護大学で教育と研究の役職に就いていらっしゃいます。専攻は看護管理学、管理の分野で「サービス業としての医療」についてお話がありました。

～サービスマネジメントについて～

薬剤師は服薬指導などを通して、いわゆる無形のことを薬剤サービスというのでしょうか、サービスを提供する専門職であると考えて「サービス業」を考えます。サービスとは何かということで、文献を引用され、サービスという「商品」はモノの商品とは全く異なる4つの特徴を挙げています。1つ目はサービスには形がない、無形性と



ということ。2つ目は服薬指導をすると同時に指導を受けることが発生するという生産と消費の同時性。3つ目はお客がサービスに参加すること。服薬指導をうける患者が参加しないと成立しないという顧客との共同生産。4つ目は結果のみならず過程が重要である、結果と過程の等価的重要性です。プロセスが満足感に大きな影響を及ぼすと言われています。次に「サービスの構成要素」です。通常行われているのは定常サービスで、行われる業務はほぼ一定だと思います。これはコアサービス・サブサービスに分けられます。コアサービスは顧客が主にそのサービス利用のために料金を支払っているサービスのことで、医療サービスでは医師の活動が主流です。サブサービスは副次的なサービスではありますが、顧客にとっての意味は必ずしも小さくなく、コアサービスの充足は当たり前で、サブサービスに目を向ける事が多いと指摘されています。医療サービスにおけるサブサービスにはさまざまな種類があり、看護師の業務は「療養上の世話」という表現に代表される看護サービスです。また薬剤師の業務を考えるに、医師や看護師では十分に納得できないが、薬の専門家の説明により薬に対する認識が変わり、患者の満足度を高めるということが考えられます。次に、特別業務サービス、コンティンジェントサービスという特別扱いへの要求ということがあります。実際に臨床現場でどの程度まで例外を認めるか、効率性を求めるか、偶発的な出来事への対応が顧客の満足度を大きく左右する



ことがあります。

「サービスの品質」ということを考えてみます。サービスは形がないもので、ここでは品質は3つに分類しています。1つは探索品質。主にモノは買う前にその品質を見ることができます。2つ目は経験品質で、製品の購入後に経験する品質ということ です。3つ目は信頼品質で、購入後も時間が経過しないと評価が難しい品質ということになります。純粋なサービスは信頼品質に偏っているということで口コミというのは重要な媒体になります。

～患者も医療チームの一員であること～

メディカルエラーを防ぐために「あなたにできること」を消費者に向けて伝えた記事を紹介されました。「ただ一つ重要なことは、あなたが医療チームの積極的な一員となること」それは患者もそのことを認識しておく必要があるのです。

～患者ケアへの家族の参加～

今回は患者本位の医療をどうするかということですので、ターゲットは患者だけでなく、家族への配慮も求められていくのではないかと思います。

～看護の視座～

最後に「医の進化と看護の視座」ということです。医療あるいは医学の進歩に看護はどのように影響を受けているかということです。看護として最後に残るのは次の4つと考えました。1つ目は実験的研究や治療に関する倫理的判断のセンスを鋭敏にしておく必要があるということです。2つ目はハイテク装置の中で、人間的な接触や人間的なケアが求められ、身体ケアの価値が

ますます重要なるのではということ。3つ目は情報に翻弄される患者や家族に対して、意思決定をどうサポートしていくか。4つ目は“安らかな死”や“その人らしく死ぬ”ことの本当の意味を伝え、そのためにケアを提供することが看護職にとっては非常に重要なのではないかとということです。

以上、患者本位の医療ということで看護職の立場からお話いただきました。



## 薬局薬剤師 リフレッシュ講座について

当初県薬会長より、今後薬学も6年制となるので、現在活躍しておられる諸先生方の知識・地位向上の為に県薬として、手作りの研修会を立ち上げたり、については少し協力をしてほしいとの話がありました。

私も薬剤師は今のみでは埋れてしまうのではないが、イヤッ必要とされなくなるのではとの危惧を抱いていたので、微力ながら手伝わせて頂くことになりました。

システムとしては3年間の学校制で、県



下の会員薬剤師・非会員薬剤師（病院薬剤師は希望者）に働きかける。

月2回6時間（6単位）で年間24回・72時間・3年間で216単位。

研修修了者には県薬より研修認定修了証を授与する。

- 以上の様に設定しました。

実施にあたっては石川県を3地区に分け、能登地区（三村 明先生）・石川中央地区（池田智恵子先生）・加賀地区（牛島 武先生）の3氏に準備委員をお願い致しました。

実行にあたっては各支部長先生・各地区会員の先生方に協力をして頂き、その他県

薬としては研修認定委員会等各セクションを設定致しました。

一番大事な講師の先生方の交渉・時間割りの設定等は古本義明先生という頼もしい味方をお願いすることに致しました。

私たちは当初県下の薬剤師（非会員を含め）600余名中半数が参加して頂ければよいのではと思っておりましたが、いざ募集を致しますとなんと8割（400余名）近い先生方の参加が得られることができました。私としましては県下の薬剤師の先生方も同じ思いをしているのだなと感じました。

スタート迄は紆余曲折がありました、何とか開場にこぎつけることができました。



始めの頃はイスも足りない程一杯になり、今後もこの様な熱気で推移していかれたらと思っております。

会も重なるにつれて講師の先生方も夜遅くまで熱心に励んでおられる薬剤師の先生方の為にと、より新しい情報を提供して頂くようになりました。

私も講義を聞く度に自分の知識の足りなさに反省しております。

お陰様で今は1年半も過ぎ、今年からは坂元倫子先生・水戸茂雄様と新しいスタッフも加わりました。

医学は日進月歩です。より新しい情報・知識修得の為に増々協力して参加頂ける様、もっと充実したセミナーにしたいと思っております。

最後になりましたが公私にわたり多大なる御尽力を頂いた古本義明先生・準備委員の先生方、そして会の運営に協力を頂いた支部長・各地区の先生方に感謝の意を表したいと思います。

篠木 俊憲



## 日本薬剤師国民年金基金 ご加入のおすすめ

平成16年4月から、新規加入者の方の予定利率が引き下げられ、掛金が引き上げられる予定です。

平成16年3月までにご加入されると有利です。

国民年金基金制度改正（変更）案まとまる！

次期財政再計算については、関係機関と協議・検討を重ねてきたところでありますが、財政再計算を1年早めて行い、平成16年4月から、新規加入者に係る予定利率・掛金額変更等の制度改正を実施する予定となりました。

新規加入者に係る予定利率は、現行の

3.0%から1.75%に変更することとしています。

なお、制度の改正については、当基金代議員会において当基金規約・規程の改正に関する議決承認を経た上で、厚生労働大臣の認可を必要とします。

基金加入をご希望される方は、平成16年3月までにお申出いただければ現行の掛金が適用されますが、平成16年4月以降にお申出の場合は引き上げ後の掛金が適用されることとなります（実質アップ率：A型加入40歳0月の例、男性36%UP、女性50%UP）。有利な平成15年度中のご加入をおすすめします。

日本薬剤師国民年金基金にご加入できるのは、薬局又は一般販売業に従事されている国民年金の第一号被保険者の方です。

掛金は完全積立方式で積み立てられています。

掛金は全額社会保険料控除の対象となり、受け取る年金は公的年金等控除が適用されます。

お申し込み・お問い合わせ先

日本 薬 剤 師 国 民 年 金 基 金  
〒170 - 0005

東京都豊島区南大塚2 - 10 - 1  
フリーダイヤル 0120 - 570036  
F A X 03(3942)7257



## 原稿を募集しています。

「県薬レポート」では、この小冊子をより一層愛されるものになりたいと願って、読者の皆様から広く原稿を募集しています。

テーマや内容、体裁は自由です。評論、随筆、意見、提言、店頭体験談、趣味の話、詩、短歌、俳句、川柳、或はマンガ、イラスト、カット、写真等々何んでも結構です。ただしあまり長いものは御遠慮の程を……。

用紙や宛先等は下記のとおりです。

用紙：400字詰原稿用紙又はハガキ

※切：特に設けていませんいつでもどうぞ

宛先：金沢市広岡町イ25 - 10

社団法人石川県薬剤師会内

その阿：採否は編集係におまかせ下さい。なお、いただいた原稿はお返してできませんのでご了承下さい。

「県薬レポート」編集係

編集員：亀田 実、五味ひろ子、茶谷美年子、  
中野 修、三浦 智子、森 正昭

石川県薬剤師会ホームページのアドレス

<http://www2.icnet.or.jp/~isyaku/>

eメール・アドレス

isyaku@hokuwa.co.jp